

◆5分以内の対応が重要！迷ったらアドレナリンを打つ！

◆血管迷走神経反射だとしても大丈夫！

第一印象評価

A 気道 ☐ 発語の有無 ☐ 異常な呼吸音 **B 呼吸** ☐ 呼吸様式 ☐ 姿勢 **C 循環** ☐ 顔色、皮膚色 ☐ 冷汗 **D 意識** ☐ 意識 ☐ 表情 **E** ☐ 全身観察

【全身の症状】

- ☐ ぐったり
- ☐ 意識もうろう
- ☐ 尿や便を漏らす
- ☐ 脈が触れにくいまたは不規則
- ☐ 唇や爪が青白い(顔色不良)

【呼吸器の症状】

- ☐ のどや胸が締め付けられる
- ☐ 声がかすれる
- ☐ 犬が吠えるような咳
- ☐ 息がしにくい
- ☐ 持続する強い咳き込み
- ☐ ゼーゼーする呼吸

(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

【消化器の症状】

- ☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- ☐ 繰り返し吐き続ける

【皮膚の症状】

- ☐ かゆみ
- ☐ じんま疹
- ☐ 血管性浮腫
- ☐ 顔面紅潮

皮膚症状はアナフィラキシーの判断には使わない！

1つでもあれば

アナフィラキシーを少しでも疑った時の対応

- ☐ 1 バイタルサインの確認 **バイタル正確さよりもアドレナリン筋注を優先！**

循環、気道、呼吸、意識状態、皮膚、体重を評価する。

- ☐ 2 助けを呼ぶ **ただちに 救急車を要請する！(119番通報)**

可能なら蘇生チーム(院内)または救急隊(地域)。

- ☐ 3 アドレナリンの筋肉注射 **時刻** **→5分以上で2回目**

0.01mg/kg(最大量:成人0.5mg、小児0.3mg)、必要に応じて5~15分毎に再投与する。

大腿前外側部(服の上から)

- ☐ 4 患者を仰臥位にする

仰向けにして30cm程度足を高くする。
呼吸が苦しいときは少し上体を起こす。
嘔吐しているときは顔を横向きにする。
突然立ち上がったたり座ったりした場合、数秒で急変することがある。

- ☐ 5 酸素投与

必要な場合、フェイスマスクか経鼻エアウェイで高流量(6~8L/分)の酸素投与を行う。

- ☐ 6 静脈ルートの確保 **無理せず救急搬送を優先！**

必要に応じて0.9%(等張/生理)食塩水を5~10分の間に成人なら5~10ml/kg、小児なら10ml/kg投与する。

- ☐ 7 心肺蘇生

必要に応じて胸部圧迫法で心肺蘇生を行う。

- ☐ 8 バイタル測定 **ゆとりがあれば何度でも！**

頻回かつ定期的に患者の血圧、脈拍、呼吸状態、酸素化を評価する。

メモ

【確知時】

血圧

/ mmHg

(測定不能)

(脈拍触知不能)

SpO2 %

HR

【アドレナリン5分後】

血圧

/ mmHg

(測定不能)

(脈拍触知不能)

SpO2 %

HR

【搬送前】

血圧

/ mmHg

(測定不能)

(脈拍触知不能)

SpO2 %

HR